

令和4年度第4回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和5年2月9日（木）14：00～17：00

場 所：Web（Zoom）会議のため、各施設にて

出席者：14名

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、金城美奈子（県立宮古病院）、島袋百代（ハニャンジャハン沖縄アフィリエイト）、上原弘美（友愛医療センター）、西村克敏（地域統括支援センター）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学院）、友利晃子（琉球大学病院）

欠席者：2名 樋口美智子（沖縄国際大学）、富里果林（南部医療センター・こども医療センター）

陪席者：2名 有賀拓郎（琉球大学病院）、松田 亮子（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和4年度第3回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和4年10月19日）

資料1に基づき、仲宗根委員より、令和4年度第4回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. がん患者ゆんたく会（10～12月）

資料2-1～2-3に基づき、令和4年10月～12月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について各委員より報告があった。中部病院のゆんたく会について玉城委員から報告。10月にフリートーク、11月に緩和ケア医の安座間先生によるアドバンスケアプランニングの講演があり、身近な人どんなことでも話し合うことが大事だという意見があった。12月は参加者やピアサポーターによる三線披露やサクスの演奏など行われ和やかな雰囲気で開催。那覇市立病院は糸数委員より報告があった。11月17日に開催し、統括支援センターよりピアサポーターも参加して頂いた。薬剤師による講義が中心で、薬剤師の仕事や、お薬の服用方法についての講義。栄養剤のメイバランスや、エンシュアの試飲会も開催。栄養剤が苦手な患者さんからは、試飲会で試してみてもう飲めそうだった、といった声があった。感染対策としてサーキュレーター的位置や窓を開けて空気の流れを作り、患者さんの位置など環境調整し開催した。1月は栄養士が講師。次回3月は統括支援センターの企画を予定。琉大病院の友利委員より各月対面で開催したと報告があった。薬剤師や、小児科所属の臨床心理士によるセルフメンタルケア、リラックス方法

の講演。12月にはパンキャンジャパンの豊見山氏と島袋氏に講演依頼。二部構成で一部は講演会で二部はフリートークとしている。評判がよく参加数も戻りつつある印象。パンキャンジャパン沖縄の島袋委員より対面患者サロン開催と報告があった。11月はフリートーク中心、12月は心と体のリハビリ、マインドフルネスや簡単なストレッチ方法の講義。どこで情報が得られるかという相談があり、相談室や患者会を活用して欲しいとお話した。

3. がん相談件数（10～12月）

資料 3-1～3-6 に基づき、令和4年10月～12月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

○北部地区医師会病院（仲村渠委員）

10月26件、11月27件、12月20件。在宅療養希望の患者さんが多いが家族との意見が合わず調整に時間がかかってしまった。また、離島在住でターミナル期だが訪問診療の利用がなかった患者さんの事例もあり、離島在住患者の支援が課題と感じている。

○県立中部病院（玉城委員）

離島支援で八重山や宮古病院からの転院、治療継続で連携している。家族と本人の意向を確認しながら在宅支援やホスピスの調整を行った。独居高齢者、透析しながらの終末期のがん患者さんの対応、告知された患者さんや家族の相談があった。12月からオンライン相談を開始、ホームページで告知しているがまだ相談はない。

○那覇市立病院（仲宗根委員）

10月97件、11月77件、12月78件。相談の内容や新規患者さんの割合は特に変わりなし。対面の相談が多く電話相談は20数件。内容は在宅医療や介護のこと、不安に対しての相談が多い。在宅医療であと数日の状況になってからの依頼が多く、一日か二日で調整することが続いている。12月は抗がん剤の副作用に関する相談が34件あり、専門看護師で対応。アピアランスについての相談も多かった。

○県立宮古病院（金城委員）

相談員が10月11月不在のため、緩和ケアの認定看護師が対応。10月29件、11月22件、12月52件。療養場所や買い物の相談、本島にいる家族からの不安、本人が本島に入院していて通院先や在宅療養についての相談。11月は対面の相談が多かった。ケアマネジャーの同席で話し合いの場を設けたり、障害年金の相談でソーシャルワーカーに同席してもらった。男性で妊孕性の温存希望で琉大の婦人科へ紹介。精神面の支援と食事が食べにくく生活面での療養の不安があり相談の場を設けた。独居の方で、渡航費について案内し役所と連携したケースもあった。

○県立八重山病院（岩崎委員）

10月68件、11月64件、12月18件。12月は相談員がコロナで半月休んだため件数が減っている。沖縄産業保健総合支援センターの保健師と両立支援についての勉強会があ

った。若い方の参加が多く、傷病手当金が切れるため経済面での相談、就労相談、社労士面談を組むことができた。相談員は両立支援コーディネーターの基礎研修も受講済。また、八重山病院の職員が12月にあったピアサポーター研修を受講。今後、相談支援センターにピアサポーターがいることをアピールすることで、より相談の幅が広がると思う。他病院で化学療法を受けるにあたって、副作用、金額、医師とのコミュニケーション等相談があり、他院の患者さんの窓口にもなっている。在宅見取りが2件あり家族から自宅に帰ることができてよかったとのこと。今後も在宅調整や訪問診療を続けていきたい。

○琉球大学病院（大久保委員）

10月107件、11月79件、12月85件と標準的な件数であった。10月は新規の相談が多く、11月、12月はリピーターが多かった。相談者の割合は他院または診断のない方が15%~20%。治療状況は、これまでは緩和ケアのみの段階が多かったが、今期は治療前、治療中の方、まだ緩和に専念でない状況の方からの相談が多かった。自院通院中の方と他院の方の相談対応は、相談員として使える資源が違ってくる。他院の方については一般的な情報までのご提供となるが多いため、対応について皆さんと情報共有・意見交換させていただければと思う。

○各施設集計

資料3-6に基づき、友利委員より報告があった。各施設別に集計をグラフ化している。利用時間は60分以内の相談が多い。がんの状況では再発・転移の方が多い。八重山病院では初発の患者さんが多い。予約調整時に前方連携担当からあらかじめ情報が得られることで、主治医と連携がとりやすい状態であることがグラフに表れている。

4. がん相談件数集計

資料4の通り、各拠点の相談件数集計に基づき友利委員より報告があった。今回は医師会病院の集計が間に合わなかったため、5病院の集計報告。相談の時間は去年と大きく変わりはなく、15分~30分、1時間以内で対面の相談が多い。相談内容は、不安や精神的苦痛の相談が一番多くこれまで通りであった。例年ホスピスへの紹介が多いが、今回はわずかに在宅へ繋ぐ相談が多かった。面会制限などのためホスピスへの相談が減り、在宅での看取り相談が増えたと推測。

5. がん相談支援センターの広報

資料5に基づき、がん相談支援センターの広報について友利委員より報告があった。12月より掲載依頼は月一回ではなく、毎週掲載するよう依頼することとした。

6. 地域統括相談支援センター活動報告

資料6に基づき、西村委員より昨年10月~12月の活動報告があった。相談件数が10月7件、11月11件、12月3件で、初めての方が7件、2回目以降の方が12件、不明

が2件だった。内容は、がん治療の方法、経過についての相談が多くピアサポーターの体験をもとにお話した。11月、12月にがんピアサポート養成講座を開催し5名参加。もう少し参加者を増やしたいため広報で早めに周知し呼びかけていきたい。満足度が高くよく理解できたとの感想。オンラインサロンでは、三回とも参加者が同じ方々で和気あいあいと行われた。キャラハンは八重山病院でがんセミナーを開催。沖縄産業まつりに参加し2件の相談があった。10月にはラジオ放送で体験や地域統括相談支援センターについて広報したところ、反響があった。

7. 第2回及び第3回がん相談員実務者研修会

資料7-1、7-2に基づき、がん相談員実務者研修会について第2回を中部病院玉城委員、第3回を琉大病院大久保委員から報告があった。

8. 第19回都道府県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会(令和4年11月24日)

資料8に基づき紙面報告があった。新指針に関する情報共有が主であった。PDCAチェックリストの改訂作業にあたって、後日意見募集を行うこととなった。この点に関して、すでに中部病院と那覇市立病院に協力を頂き回答終了、今後沖縄県の部会で年一回程度相互評価・報告ができるよう計画していることが報告された。次に、都道府県単位での連携強化の取り組みのための事前アンケート結果報告があった。小児がん拠点病院とがん診療連携拠点病院との連携について、国立成育医療研究センターの松本公一先生より、長期フォローアップや小児でもみられる希少がんに関して、小児でのノウハウを成人診療科と共有することが必要であること、生殖医療ネットワークは県単位で行なわれているため都道府県間の情報共有の場として小児がんブロック協議会をうまく利用していただきたいと説明があった。長期フォローアップに関しては、データベースをきちんと作ること、長期フォローアップ外来を整備すること、長期フォローアップの計画提供の仕組みづくりの3つが重要であると述べられた。長期フォローアップ外来の仕組みづくりに関しては、厚労省の委託事業としてLCASという研修がある。この中にはeラーニング教材等もあるため積極的な参加が呼びかけられた。また、国立成育医療研究センター小児がんセンターでは、小児がん医療相談ホットラインも設けているので、小児がんのことで困ったことがあれば遠慮なく利用していただきたいことや、オンラインセカンドオピニオンの活用も提示された。続いて、がん相談支援センターの活用促進と周知に向けた取り組みについて2病院から取り組み報告があった。岐阜大学医学部附属病院の山本恭孝先生からは、県の相談支援部会、岡山県協議会で情報提供資材の周知協力を行い、更に病院長名で資料活用についての依頼文を発出。関心を示した診療科から資料配布するよう取り組みを始めていると報告。岡山大学病院の石井亜矢乃先生からは、院内便りなどで繰り返し情報提供資材の周知を行い、患者向けにもデジタルサイネージや院内の患者サロンなどで周知を図っていると報告があった。

9. 九州沖縄ブロック 地域相談支援フォーラム(令和5年2月5日)

資料9に基づき友利委員より報告があった。ピアサポート活動がテーマとなっており、九州各県の相談支援センターとピアサポート活動に関する取り組み報告、日本赤十字社熊本健康管理センター所長吉田稔先生と、NPO法人支えあう会「α」副理事長 野田真由美先生の講演、ピアサポート活動の課題についてのグループワークが行われた（グループワークには、那覇市立病院から伊禮委員と糸数委員をファシリテーターとして派遣して頂いた）。また大久保委員より、普段のがん相談の研修と違い、九州各県の部会の活動について知ることができ、相談員と情報交換ができるため、各拠点病院の相談員は積極的に参加してほしいとアナウンスがあった。次年度は11月福岡が主催予定。

【協議事項】

1. 令和5年度部会計画について、資料10の通り承認された。
2. 部会委員構成について（案）、資料11の通り承認された。
3. 第4次沖縄県がん対策推進計画（協議会案）の作成、特に「3. 共生分野」について
資料13-1、13-2に基づき、増田委員より協議の提案と趣旨の説明があった。国が第4次のがん計画を策定するにあたって、パブリックコメントを募集している。去った2月3日に行われた、がん診療連携協議会で、県に先駆けて意見を出そうという事になったため、以下の内容について具体的にどういふことをがん計画の中に盛り込んでいった方がいいか協議したい。今回提出した資料12-1、12-2は、国が作成したロジックモデルをそのまま掲載している。ロジックモデルは、最終的にあるべき姿を考えてから物事を決めていくという方法である。つまり、「最終的にこういう姿がもたらされれば患者さんは満足だよ」というのが最初にあって、それをもたらすためにはどうしていったらいいのか、という考え方。資料12-1の一番右にある「最終アウトカム」は、沖縄県の第4次計画の「あるべき姿」という事になる。最終アウトカムは比較的ざっくりとした理念的なものであり、そこから分野別アウトカム、中間アウトカム、個別施策と、左へ行くほどに具体的になっていくよう各項目の個別施策について意見を挙げてほしい。

【相談支援】

- ・研修1～3を受けた後、継続的に研修を必ず受けている
- ・がん相談専用の電話回線を設けるか、電話がつながりやすい工夫、設備を整える
- ・患者が通院しやすい病院で治療が受けられるよう、拠点病院・非拠点病院が連携してがん診療を行ってほしい。非拠点病院にも相談支援部門を作ってもいいかもしれない。いずれにしても、がん診療の2/3を非拠点が担っているため巻き込んで

いく必要がある

- ・情報提供・相談支援体制があることの患者への啓発がもっと必要
- ・拠点病院全体として、プライバシーに配慮した面談室やアピアランス関係のグッズ展示スペースを確保する体制を整える

【情報提供】

- ・最新の治療情報を得られるような、拠点病院とのつながりが患者会としてほしいところ。人的交流と新しい情報を得る機会と場を設けること
- ・インターネットで県内の情報収集ができるよう情報の整備と、情報の在り処の啓発が必要
- ・沖縄県のホームページ（がん診療を行う県内施設についてのページ）のアクセス数を増やす・認知度を上げる取り組み
- ・インターネット環境のない患者さんに、病院でオンライン上の情報を提供するサービスを展開する
- ・患者さんが欲しいときに欲しいタイミングで県・クリニック・拠点病院等から情報が得られる・提供される仕組み作り
- ・がん相談支援センター立ち寄りの際に、がんサポートハンドブックを必ず手渡す

【デジタル化】

- ・がんの専門相談員が自宅待機や病休などで不在の場合に、ZOOM等を活用し、他の拠点病院の相談員とも連携しながら相談業務が継続できる体制づくり
- ・ZOOM等を用いてのがん相談、セカンドオピニオン

【社会連携】

- ・拠点病院から在宅医療へのスムーズな移行について、中間病院への転院を挟むなど工夫する

【就労支援】

- ・職場側への施策として、職場に対しても就労支援の勉強会があると良い

【アピアランスケア】

- ・ウィッグやネイルケア、メイク道具など、相談・紹介されたらその場で購入できるようにしてほしい
- ・拠点病院でアピアランス関連グッズの展示即売会を実施できる体制を作る
- ・ウィッグや下着などの試着のための、プライバシーに配慮した相談場所の整備と、相談センターにアピアランスケアの研修を受けたスタッフを配置する

【その他の社会的な問題について】

- ・患者だけでなくその家族についても社会からの疎外感が緩和されるよう、学校や職場でのがん教育を継続的に行う
- ・生活と医療の場が分断されないよう、病院と患者会が連携する

【自殺対策】

- ・自殺防止のための取り組みの一つとして、相談件数の中で希死念慮の相談割合を数値として可視化する

4. 沖縄県地域統括相談支援センターからの5つの提案について

資料12に基づき、増田委員より以下5つの提案があり、承認された。それぞれの実施についての詳細は、後日調整を行う。

- (1) 拠点病院等で行われている患者サロンに、年1回、可能であれば毎回、当センターのピアサポーターを派遣して、ピアサポート活動を行いたい。
- (2) ピアサポート活動の活発化を目的とし、定期的な出張ピアサポート（仮称）を開催と、その際には会場を借用したい。
- (3) がん患者会意見交換会（仮称）に、がん診療連携拠点病院等の6つの病院のがん相談支援センターの専門相談員に、それぞれ出席をお願いしたい。
- (4) 毎月第3火曜の14:30～15:30に開催しているオンラインゆんたく会への相談員の参加について。がん診療連携拠点病院等の6つの病院のがん相談支援センターの専門相談員に、年2回ほど持ち回りでお1人出席をお願いしたい。
- (5) 県内全体のアピアランスケアのレベルアップのため、アピアランスケアに係る研修への参加依頼。研修は東京での開催だが、旅費等は参加者に負担がかからないようにしていく。

5. その他

次回開催は、令和5年5月18日（木）14時から開催。